

まち地域のこえ広場

No.1

町への思い、地域への思い、議会への思いを届けます。

助けられたり助けたり・・・「お互いさまのまち」に



境 智恵美さん
(68歳)
明神在住

私たちが小さい頃は、近所にもらい風呂、テレビがある家に集まり、みんな鑑賞。そこには必然的に近所の助け合いの心が生まれていました。

2011年の東日本大震災の後、当時93歳の岩手県のおばあちゃんがテレビに映り、「私は100歳まで頑張ります。応援して下さい」と訴えていました。居ても立ってもいられなくなり、自分に何かできることはないか、そのおばあちゃんに会いに岩手まで行きました。その時の出会いは今でも宝物となっています。人との出会いが一番大切であり、出会いは自分の磨いてくれるもの。

今私は、スナックを経営しながらも93歳の実母(要介護4)を介護しています。やればできる!と自身を元気づけるためにも、日々声も元気に頑張っています。

昔のように、地域で、ご近所で、助けられたり、助けたり、自分にできることを精一杯やりながら、黒潮町を明るい町にしていきたいです!

大人と子どもの距離が近い子育てしやすい黒潮町

30歳手前まで神奈川県で介護の仕事をする中、年を重ねても食べる事って一番の楽しみなんだなあと思つた時から農業を意識しました。その後、黒潮町の篤農家さんと知り合ったこと、サーフィンをしていたこともあり、黒潮町へ移住を。その篤農家さんの所で2年半の研修を受け、その間にさち子さんと出会い1年間の遠距離恋愛を経て、結婚をして就農しました。披露宴は「であいの里蜷川」で行い、地域の方々に盛大に祝ってもらいました。

現在は、イチゴ、グリーンレモン、サツマイモを栽培して農業も3年目を迎えました。

しかし、移住農業は減価償却費が高い状態から始まり、固定費も高いのでなかなか大変です。薄利多売ではなく厚利少売で農業経営するのが夢です(笑)

移住者としての提案は、お試しでトレーラーハウスなどを活用すれば空家よりも手軽に生活出来るのではないかと思います。移動出来るので災害時にも便利。

黒潮町は子育てしやすく、地域の活動を通して大人と子どもの距離も近く感じます。

子どもたちが育っても黒潮町を意識してもらいたい、田舎ビジネスを皆んなで考えていければいいなあと思っています。



杉本 憲司さん(45歳)
さち子さん(41歳)
ご夫妻、蜷川在住

編集後記

今年5月、黒潮町議会も定数割れで一名欠員という中で新たなスタートを切りました。

議員のなり手不足は全国的な課題となっており、これは単に報酬や定数の問題だけではなく、議員としての立場において、様々な要因があるのも確かです。

私たち黒潮町議会もこの問題をしっかりと分析し、議会の重要性や必要性、そして議員が置かれた立場をさらに発信していかなければならないと思っております。

そして、黒潮町の将来のために、住民の皆さんにも十分な理解と関心を持って頂きますようよろしくお願ひします。

(小松孝年)

議会広報常任委員会

- | | |
|------|-------|
| 委員長 | 宮川 徳光 |
| 副委員長 | 小松 孝年 |
| 委員 | 植田 佐知 |
| 同 | 澳本 哲也 |
| 同 | 濱村 美香 |
| 同 | 山本 牧夫 |

黒潮町 議会だより・議事録は、黒潮町ホームページよりご覧いただけます。

<http://www.town.kuroshio.lg.jp/> → 黒潮町の紹介 → 議会 → 議会だより → バックナンバー

■発行人 高知県黒潮町議会
■編集 黒潮町議会広報常任委員会
■住所 高知県幡多郡黒潮町入野 5893 TEL.(0880)43-2111(代)・(0880)43-2831(直)

■発行日 令和5年8月1日